

要旨

1. はじめに

現代社会では仕事のストレスや過剰労働によって健康を害する人が増え、仕事と子育てや介護との両立に悩む人が後を絶たない。また少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少から労働力不足が深刻化しつつある。

これらの課題を打開するため、国策としてテレワークが推進されている。その効果としては女性や高齢者等の就業機会が拡大して少子高齢化による労働力不足の対策が期待されている。企業としては結婚や出産、高齢で働けなくなる優秀な人材の流出を抑止でき、就業者は今までの通勤時間を家族と過ごす時間や家事・育児や自分の時間を増やすなどに充てることで、ワークライフバランスの実現につながる。

時代のニーズに合致した政策だと思われるが、国土交通省の発表ではテレワークの導入企業が増加している一方で利用者はむしろ減少傾向にあるとしており、まだ普及が進んでいないのが実状である。

当研究会では、テレワーク普及の阻害要因の一つは必要な勤務環境を整えきれていないことにあると考え、中でも代表的な在宅勤務に足りていない環境を検証し、SaaSによる最適な在宅勤務の形を提供することで少しでも社会全体に貢献できればと考える。

2. 課題と仮説立案

企業側と従業員側それぞれの視点から在宅勤務の問題点を検討し、普及させるためには以下の課題の解消が鍵になると考えた。

課題	内容
① 勤務時間管理	在宅勤務は出退勤や在席状況、勤務時間を詳細に把握できないため、勤務実態が不透明になってしまう。
② コミュニケーション	在宅勤務は気軽に他の人に話しかけることができず、疎外感やコミュニケーション不足が生じてしまう。

この裏付けをとるため、ユーザ会会員を対象に在宅勤務に関するアンケートを実施。その結果、約60%の方から「コミュニケーションの取り辛さ」や「勤務時間の管理」に不安・不満を感じているとの回答を得た。そしてこれらの課題はSaaSの活用により解決できるのではと考えた。

3. 仮説検証

コミュニケーション不足を補うためのSaaSツールとしてチャットとWEB会議に着目し、実際にツールを使って打ち合わせを行うことでその使用感を確かめた。

ツール	検証結果（評価）
(1) チャット	○：離れたところにいる人に質問や声掛けがしやすく雑談のように気軽にコミュニケーションがとれる。 ×：複数人で行う場合、自分に関係なく話題に入れないような状況が続くと孤独感・疎外感を感じてしまう。
(2) WEB 会議	○：カメラ・マイク機能により参加者の状況・様子がひとめでわかるため、臨場感がありリアルタイム性に富んでいる。

要旨

	×：接続不良や理解不足などで話についていけなくなる。ホワイトボード機能での議事録や録音・録画機能で対応可能。
--	--

次に、在宅勤務に欠かせないのが勤務時間管理ツールである。介護や育児のために在宅勤務を行う人は仕事を一時的に離れる場合があるため、勤務時間を詳細に管理・集計して管理者も確認できる必要がある。

また、在宅勤務を社内勤務と遜色なく行うためには、社内勤務・在宅勤務すべての人が常に共通のツールを使用する必要がある。そこで全社員が共通で使用する統合ポータル画面を SaaS で新たに用意することで、勤務時間管理やコミュニケーション不足の課題が解決できるのではないかと考えた。

【SaaS 統合ポータル画面に用意する機能】

- ・ [出勤][在席][離席][退勤] ボタンによる勤務時間の集計管理
- ・ 出勤時に確認する「スケジュール／メール／掲示板」のリスト表示機能
- ・ チームメンバー全員の在席画面表示（カメラ） + グループチャット機能
- ・ その他共通で使用するツール（WEB 会議など）のログイン画面リンク

4. まとめ

出勤時はまずポータル画面にログインして「出勤」ボタン押下し勤務を開始する。出勤者・在席者がひとめでわかるのでチャットで気軽に声掛けや問い掛けができ、WEB 会議はこの画面からログインすることで必ず共通のツールを使用できる。仕事を一時中断するときは「離席」ボタン、退勤時は「退勤」ボタンを押すことで1日の勤務時間が自動集計される。これにより勤務時間管理とコミュニケーション不足の不安を解消することができた。

評価方法や在宅勤務に伴う社内制度の見直しなどシステム環境以外で解決すべき課題もあるが、今回提案したような SaaS ツールは、在宅勤務のハードルを越えるための第一歩になると考える。

※文章内の記載の会社名および製品名は、各社の登録商標および商標です。